

## RICHARD MILLE SUZUKA Sound of ENGINE 2018 登場マシン続々決定 / Team TAISAN AUCTION初開催

2018年11月17日（土）・18日（日）に鈴鹿サーキット（三重県鈴鹿市）で「RICHARD MILLE SUZUKA Sound of ENGINE 2018」を開催いたします。

本イベント内で行われるイベントに登場するMaster Historic Formula 1公式レースの出場マシン、そして新たに Group C、Legend F1マシンが決定いたしましたのでご案内いたします。

また、11月17日（土）には「Team TAISAN AUCTION」の初開催が決定いたしました。

### Masters Historic Formula 1 レース 出場マシン Vol.5

#### 1977 Hesketh 308E [Fittipaldi Class]

＜解説＞ 新生ヘスケス・レーシングの77年用マシンとしてナイジェル・ストラウドとフランク・ダーニーがデザインし77年のスペインGPでデビュー。ベルギーGPからサードカーとして参戦を開始したルパート・キーガンのマシンに描かれた“ペントハウス”のスポンサーカラーで有名になった。ドライバーのマイケル・ライオンズはこのマシンで2012年、14年のモナコ・ヒストリックを制した、ヒストリックF1界のトップレーサーの一人だ。



#### 1978 Fittipaldi F5A [Fittipaldi Class]

＜解説＞ 77年のF5をジャコモ・カリリが改良。そのシェイプはロータス78の影響が感じられるが、サイドポンツーンの裏側はフラットな非ウイングカー。しかしながら78年のブラジルGPでフィッティパルディが2位に入るなど、数度の入賞を記録している。マックス・スミス-ヒリアードのF5AはシャシーナンバーF5A-2。17年のFIAマスターズ・フィッティパルディ・クラスのチャンピオンでもある。



#### 1978 Lotus 79/2 [Head Class]

＜解説＞ ロータス78のグラウンドエフェクト構造をさらに突き詰め、背後に燃料タンクを一体化した細く軽量のモノコック、サイドスカート、リア・インボードブレーキなどを採用。その速さと美しさから“ブラック・ビューティー”と呼ばれた78年のチャンピオンカー。リー・モウルスがドライブする79/2は、デビュー戦となったベルギーGPでM.アンドレティが優勝。第12戦ベルギーGPではR.ピーターソンが生涯最後の優勝を遂げた経歴を持っている。



#### 1978 Williams FW07C [Head Class]

＜解説＞ アルミハニカム製のモノコックを剛性の高いスクエアなデザインに変更したほか空力を改良。さらにサイドスカート禁止を受け車高調整可能なハイドロサスを組み込んだFW07の最終進化型。クリストフ・ダンサンプルのマシンは、西アメリカGPでA.ジョーンズが優勝したFW07/11。2年連続でコンストラクターズ・タイトルを獲得したものの、A.ジョーンズとC.ロイテマンの対立でドライバーズタイトルは取り逃している。



Masters Historic Formula Oneレースにおいて、以下のマシンの出場がキャンセルとなりました。

Arrows A5 (1982年)、Tyrrell 002 (1971年)、Surtees TS16 (1974年)、Lotus 77 (1976年)、Ferrari 312 T4 (1979年)

#### 株式会社モビリティランド

東京オフィス 〒107-0062 東京都港区南青山1-15-9 第45興和ビル9F TEL(03)5770-6430 FAX(03)5770-6435 E-mail media@mobilityland.co.jp  
鈴鹿サーキット 〒510-0295 三重県鈴鹿市稲生町7992 TEL(059)378-1111 FAX(059)378-4568 URL http://www.suzukacircuit.jp/

## GroupC デモラン登場マシン

1980年代から1990年代前半まで使われたスポーツプロトタイプカーのデモンストレーションランを行います。迫力のローリングスタートもお楽しみいただけます。

※その他のマシンは決定次第、ご案内いたします。

### 1991 MAZDA 787B #202 JSPC MODEL

#### ドライバー 寺田陽次郎

<解説> 1991年のル・マン24時間レースで総合優勝を飾った#55がミュージアム入りとなった後、国内の全日本スポーツプロトタイプカー耐久選手権(JSPC)レースに参戦するため、ル・マン後に急遽製作された787B-003号車。国内レース専用マシンとして製作されたため、シャシーやカウル類には軽量化が施された。外観上はル・マン仕様には不可欠な高照度ヘッドライトがなく、レナウンカラーのグリーンとオレンジの配置が逆転されているのが大きな特徴となっている。



### 1992 NISSAN R91CP

#### ドライバー 長谷見昌弘、星野一義

<解説> R90型から自社製となったマシンでの参戦となったNISSANのグループC活動。新設計のカーボンモノコックを採用したR91CPは、1992年のデイトナ24時間レースで長谷見昌弘/星野一義/鈴木利男組が日本人・日本車として初の総合優勝を飾った記念すべきマシン。搭載エンジンは3500ccのVRH35Z(V型8気筒DOHCツインターボ)で、参戦当時は800馬力の最高出力にまで到達した。このハイパワーを受け止める為に更なるチューニングをされたシャシーの採用など、優れたトータルバランスが、デイトナ24時間レース制覇という快挙を成し遂げた。



### 1993 Peugeot 905

<解説> グループCカーによる世界選手権は1992年に終焉を迎えたが、ル・マン24時間では93年もプジョーとトヨタの一騎打ちが見られた。3台のプジョー905が同じく3台体制のトヨタTS010を圧倒。2連勝に加え、表彰台を独占した。優勝はJ・ブラバム/C・ブシュ/ E・エラリー組。シャシー設計はアンドレ・ドゥ・コルタンツで、カーボン製モノコックは仏航空機メーカーのダッソーが製作。NA3.5リッターV10エンジンは当時のF1に合わせたCカー規定によるもの。プジョーは翌1994年にエンジンサプライヤーとしてF1参戦を開始した。



## Legend of Formula 1 デモラン登場マシン

1980年代後半から2010年代まで、近年のF1マシンによるデモンストレーションランを実施します。かつてのサウンドをご堪能ください。

※その他のマシンは決定次第、ご案内いたします。

## 1988 Williams FW12

<解説> 1986年から2年連続でホンダエンジンとのタッグでコンストラクターズチャンピオンに輝いたウィリアムズだったが、1988年はホンダエンジンの供給を受けることができず、ジャッドエンジンを搭載してシーズンを戦った。ターボエンジンが禁止される1989年を見据えて前倒しでNAエンジンを使用。レギュラードライバーにナイジェル・マンセルとリカルド・パトレーゼを起用した。アクティブサスペンションへのトライやエンジンの信頼性不足でリタイヤが多かったが、マンセルが2度2位表彰台に立っている。



## 1992 VENTURI LC92

<解説> 1987年からF1参戦を開始したラルースチームは、1990年鈴木亜久里が加入すると鈴鹿F1日本GPで日本人ドライバー初の3位表彰台に立つ活躍を見せた。1992年チームは自動車メーカー、ヴェンチュリーの支援を受け、ランボルギーニV12エンジンを搭載したヴェンチュリーLC92を投入。前年の全日本F3000チャンピオン片山右京がF1にデビューし、そのステアリングを握った。その後もラルースからは1993年鈴木利男、1994年野田英樹がスポット参戦。日本人ドライバーと縁の深いチームだった。



## 2005 FERRARI F2005

<解説> 2004年に圧倒的な強さを誇ったフェラーリは、2005年のマシンも前年からの発展型であるF2005で行くことにしていた。だが、ルノーとマクラーレンの速さについて行けなかった。それでも、ミハエル・シューマッハとルーベンス・バリチェロは奮闘し、二人で3位3回、2位4回を獲得。タイヤの問題で6台のみの出走となったアメリカGPではシューマッハが優勝した。このF2005での苦い経験は、翌年のフェラーリの善戦へとつながった。



## 2010 FERRARI F10

<解説> 2009年の新規定対応にやや乗り遅れていたフェラーリは、翌年遅れを解消したマシンF10を投入。ドライバーは新加入で元チャンピオンのフェルナンド・アロンソと、前年の大怪我から復帰したフェリペ・マッサ。序盤戦でのエンジンの不安が解消されるとF10は持ち前のハンドリング性能の良さを武器に躍進。アロンソは5勝を挙げたが、わずか4点差でチャンピオンを逃してしまった。マッサも5回表彰台に登る善戦を見せた。



## Team TAISAN AUCTION

1983年10月からレース参戦をスタートさせ、名門プライベートである『Team TAISAN』の車両やパーツなどのコレクションを集めたオークションを初開催します。

### <開催概要>

開催日：11月17日（土）

午前：プレビュー

午後：オークション（パーツと車両の2部構成）※詳細スケジュールは近日発表

オークション入札参加者を募集中 詳細はBHオークションのWEBサイトをご確認ください

<http://bhauktion.jp/auktion/2018taisan/info/>

※RICHARD MILLE SUZUKA Sound of ENGINE 2018ご来場の方の入札参加も可能です（別途入札者登録が必要です）

※11月17日（土）午前のプレビューは、入札者登録をされていない方もご入場いただけます

エスティメイトや出品順（Lot. No）はBHオークションのWEBサイトにて順次更新されます。



『Team TAISAN』。何より、そのオーナー監督である千葉泰常氏

### 日本一のプライベートー その栄光の歴史をオークションする

日本が世界に誇る名門プライベートーとしてあまたの栄光を勝ち取り、後世に残すべき数々の感動的なドラマを演出してきた『Team TAISAN』。何より、そのオーナー監督である千葉泰常氏の、モータースポーツにかける真っ直ぐな情熱を伴った存在そのものが、レース関係者、ドライバーはもとより、多くのレースファンの間ではひとつの“伝説”として語り継がれている。『Team TAISAN AUCTION』は、その千葉氏の「36年間続けてきた自分のレース活動も、そろそろ総仕上げの時期にある」という想いから開催されるものだ。

BNR32グループAやJGTC参戦用にモディファイされたF40といった10台を超える伝説のレースカーたちに加え、貴重なエンジンやパーツ、さらにはチームのオフィシャルグッズなど、東京・山王の「タイサン・ハウス」と千葉県チームガレージに眠っていた“価値ある栄光”が、このオークションには供される予定である。

高額での落札が予想されるレースカーだけでなく、より多くのファンが入札に参加できるように、手頃なプライスレンジのパーツやグッズ類が出品されるのも、このオークションの魅力だろう。「ある意味、これは私の人生のオークションなんです。レースはね、私の人生そのものだから。だから一切の悔いなく、多くの皆さんに喜んでいただけるオークションにしたいと思います」千葉泰常の人生を賭けた歴史——果たしてそこに、どれだけの素晴らしく、そして新たな価値を付けることができるのか？

『Team TAISAN AUCTION』では現在、オークション入札参加者を募集中。詳しくはBHオークションのHP（[bhauktion.jp](http://bhauktion.jp)）を確認されたし。また、オークション前に開催される出品プレビューは、入札者登録をされていない方もご入場いただけます。

## Team TAISAN AUCTION 出品車両・パーツ (10月3日現在)

### 出品車両



1991 STP TAISAN GT-R (JTC)  
ESTIMATE : ¥40,000,000 - ¥50,000,000



1988 TAISAN STAR CARD F40 (JGTC)  
ESTIMATE : ¥65,000,000 - ¥75,000,000



2007 YUNKEL POWER TAISAN  
PORSCHE (SUPER GT)  
ESTIMATE : COMING SOON



1924 BENTLEY SPEED 3.0  
ESTIMATE : COMING SOON



2001 BENTLEY EXP SPEED8 REPLICA  
ESTIMATE : COMING SOON



1964 D TYPE  
REPRODUCTION by REYNARD  
ESTIMATE : COMING SOON



1996 LOLA INDY500  
Without motor  
ESTIMATE : COMING SOON



2014 STP TAISAN GAIA  
POWER GT-R (S-GT)  
ESTIMATE : COMING SOON



1997 STP TAISAN VIPER (JGTC)  
ESTIMATE : COMING SOON



2003 DODGE VIPER  
COMPETITION COUPE (C40)  
ESTIMATE : COMING SOON

### 出品パーツ・グッズ



F40 Engine



BNR32 Gr.A RAYS Wheel set



962C BBS Wheel set



962C Front cowl



911 GT2 Evo Rear food & wing



997GT3R ENGINE



STP TAISAN GT-R



STP TAISAN PORSCHE  
OFFICIAL TOY SET

※出品情報は変更になることがあります。

### 株式会社 モビリティランド

東京オフィス 〒107-0062 東京都港区南青山1-15-9 第45興和ビル9F TEL(03)5770-6430 FAX(03)5770-6435 E-mail media@mobilityland.co.jp  
鈴鹿サーキット 〒510-0295 三重県鈴鹿市稲生町7992 TEL(059)378-1111 FAX(059)378-4568 URL http://www.suzukacircuit.jp/